

“鮮度一番！”

No.218

～女性と男性が支え合う社会をつくる～

CONTENTS

- 1～2 / 新コーナー ワーママのジレンマ
- 2 / 新コーナー 『堤中納言物語』
- 2～4 / 運営委員会で話し合われたこと
- 4 / 編集後記

新コーナー

ワーママのジレンマ

Vol. 1

石本史子

この度、私の拙文に紙面を割いていただき、まことにありがとうございます。私は一般社団法人マドンナ・ワークスという、働き方を柔軟にし、男女ともに働き続けながら、子どもを育ていけることを目標にした団体の理事をしております。

なぜそんなことをしているのかと言えば、自分自身が子どもを産んでみて、なんとジレンマの多いことか！ということを実感したからです。

私には、二人の娘がいます。正直、産む前はこんなに働き方を熱心に考えたことはありませんでした。でも、産んでみて、週5日、8時間勤務を続けるのは本当に難しいということを身に染みて実感しました。産む前、もっと言えば、妊娠する前は、男性と同じように働き、いっしょのフィールドで切磋琢磨してきたのです。大学までは、自分が勉強して努力をすれば、本当に男女平等に学業で評価されてきたのです。成績がすべてではないにしても、女性の方が入社時の成績は優れているというのは、皆さん耳にタコができるほど聞いている話だと思います。

それなのに、収入はガクッと減り（育休手当が出てても）、自分の時間は無くなり、睡眠すらままならない。予定はすべて子ども次第。急病や行事の準備はすべてママにまわってきます。一方、パパはと言えば、自分の都合で夜も帰宅し、自分のペースで食事ができ、ぐっすり睡眠がとれ、朝は自分のことだけして出勤できるのです。

これらが悪いというわけではありません。「ママ」としては子どもの面倒を自分がメインで見られることはとても嬉しいことですし、具合の悪い子どもを放っておいては仕事も集中できません。ですが、「私」という一人の人間の顔も自分にはあり、まぎれもない事実で、その「私」という人間が「なぜ私ばかりすべて行わなくてはいけないのだろう？」と、消しても消してもその思いが頭をもたげるのです。

女性は「細く長く働く」ということが大事だと諸先輩方からは言われます。しかし、それを実現できるかどうかは、就職する会社がどういう制度を設けているか、近くに手助けしてくれる親がいるのか、そもそも子どもが健康かなど、様々なハードルがあります。私はただ、働きたいだけなのに…。

ではなぜ働きたいのでしょうか？

それは、仕事を通して自分自身の成長がわかるからです。そして、他者から「私」という人間が必要としてもらえるからです。身内からの「必要とされる」状況とはまた違うのは皆さん

もご自身の体験を通して感じられることだと思います。

それが、子どもを持つと、約 6 割の女性が退職し、自分の人生をさておいてでも、子どものために自分の時間を注ぎ込むことになるのです。前述しましたが、子どもを持ち、育てるといふ体験は本当に貴重ですし、ありがたいことです。しかし、どうして主に女性がそれを担うのでしょうか？ どうして私は「私」でいられなくなるのでしょうか？ それを求めては、悪い母だと思ふ罪悪感を持ってしまっているのでしょうか？

子育てが終わる、それがいつかは私にはまだよくわからないし実感はありません。しかし、必ず終わる時が来るのです。その時に、「私」を振り返って、前向きになれるとすれば、私にはやはり仕事が大切なのです。家族でもない、友達でもない、仕事は大切な生きがいをくれます。

男性には逆が言えます。仕事で行き詰ったり、つらいことがあっても、家族の笑顔や存在がきっと大きな助けとなっているはずです。

お互いがお互いの立場を理解するためにも、女性も働き続け、男性も家庭にもっと関わられる働き方が出来れば、きっと次の世代にもいい影響があるはず。そんな地域で育つ子供は幸せではないでしょうか？

新コーナー

『堤中納言物語』を読む

(第 1 話)

「はじめに」

三条地名研究会 杉野真司

今回から『『堤中納言物語（つつみちゅうなごんものがたり）』を読む』をはじめます。地名の話ではなく、平安朝の短編物語『堤中納言物語』を取り上げてみたいと思います。『堤中納言物語』をお読みになった方もいらっしゃると思いますが、ご存じない方からすると、タイトルから「堤中納言」という主人公の登場する物語を想像するかもしれません。内容とタイトルとは全く一致しません。古典文学には、なぜこの題名がつけられたのか不明の作品がよくありますが、『堤中納言物語』もそのひとつに数えられます。いろんな説がありますが、ひとつ上げると、堤中納言の堤（つつみ）は、人の名前ではなく、包み込むの包み（つつみ）で、色々なお話をひとつに包んだことに由来するという説があります。バラエティに富んだ物語の数々をお菓子に見立て、詰め合わせのお菓子箱にたとえられることもあります。短編らしく場面を鮮やかに切り取った描写で、ウィットとユーモアあふれるお話が 10 話ほど詰めこまれた物語集です。包みを開いて、ひとつひとつの物語を味わって行きたいと思います。

『堤中納言物語』について詳しく知りたい方は、図書館などでテキストや注釈書をご覧になって下さい。人気のある作品なので、いろんな解説書が出ています。今回は、角川ソフィア文庫を用いてこの物語集を読みすすめて行きます。(H29. 5. 31)

運営委員会で話し合われたこと

日 時 平成 29 年 6 月 7 日 (水) (AM9:30~11:30)

場 所 男女共同参画センター(桜木町)

7月の運営委員会は、5日(水曜日)9:30~男女共同参画センターです。どなたでもおいでください。

1. 三条マルシェ（5/7）初出店を終えて

5月7日(日)、準備のため早朝からのスタートでしたので、メンバーの体力がもつかどうか不安もありましたが、午後3時の閉店、その後の片付けまで、笑顔で無事終えることが出来ました。

安室さんの着物リメイクコート初め、それぞれの小物達がとても活躍して、多くの人たちが、足を止めてくれました。

意識アンケート調査へは、51名の回答があり、住んでいる地域では、新潟市、柏崎市、燕市からも来条されていることが分かりました。

困りごとは？の問いには、「健康」「お金」「仕事」「家庭」「介護」「地域」と答えられた人の他、「何もない」「今が一番幸せ！」との回答もありました。会話の中で高齢男性は、「この三条マルシェが、町に出るきっかけになり喜んでいる。」「今まで仕事一筋で、家庭は妻に任せっきりだった。退職して、妻と会話を持ちたいが、今更と妻に拒絶されている。これから妻に対して、どんな態度をとったらいいのか分からない。」との声を聞くことが出来ました。

このマルシェ出店を“しゃべり場”的な「対話」を楽しむ場にしていけたらいいねと話し合い、アンケート結果は今後の活動につなげていきたいと思えます。

2. 第22回総会について

3日後にせまった総会に向けて、最終打ち合わせを行いました。総会のご報告は、来月7月号に掲載します。

◆総会出席届の《何でも通信欄》より

- ・ご盛会を祈念しています
- ・今年はお出席できず申し訳ありません。私も頑張っておりますので女性会議の皆様も頑張ってください。
- ・今年度もよろしく申し上げます
- ・三条女性会議これからも応援しています。頑張ってください。
- ・第22回総会おめでとうございます。“鮮度一番！”いつも楽しみにしております。気がつけばNO.217！スゴイ事ですね!!!50代にさしかかり、老親の介護が現実のものに…女性会議の皆様にご道を照らして頂き、心強いです。(地域に根を張り、朗らかに)
- ・運営委員会も今年度は1度も参加できずに申し訳ありません。小売業は休日が少なく、大変です。
- ・いつも欠席で申し訳ございません。ツリーに行ってみたかった。川瀬さんのお話を聞きたかった。残念！ですが、長男の結婚式です。盛会をお祈りします。
- ・すいません。当日、イベントスタッフで参加できません。またよろしくお祈り致します。

3. 各種審議会等について

西方久子

5月10日(水)ネットワーク三条代表者会議が、男女共同参画センターで開催され、代理で西方が出席。

議題は、2つ

(1) 第12回ひとひとフォーラムについて(アンケート集計資料配布)

- ・3月5日(日)延べ人数 196人
午前のイベント、午後の講演会とも、参加者が少なかった。
- ・人を集めることの大切さ、工夫が必要。(マルシェなど他の行事やイベントと合同に行い、多くの市民参加や年代層の拡大を図るなど)
- ・男女共同参画推進社会をめざして20年たち、今一度、男女共同参画の意義・視点など、

行政担当部署(地域経営課)として検討してほしい。(要望)

- (2) ネットワーク三条推薦審議会等の委員について
・各審議会委員について、団体・委員について話し合う。

今年度の「ひとひとフォーラム」については、見直しが必要と考え、今日の会議では見送りとする。会員の皆様のご意見をお聞かせください。

4.

燕三条エフエム放送(ラヂオは〜と 76.8MHz) ワイワイ女性ひろば

●本放送 毎週木曜日 11:00~11:30 ●再放送 毎週水曜日 19:30~20:00

6月のテーマ 「市島教授のコミュニケーション講座」

～女と男のコミュニケーション・通じていますか?～

- ①なぜわからない、女の気持ち! ②男は一体何を考えているの?
③熟年離婚急増中! ④もうひと言あったら
⑤心をつなぐコミュニケーション

メンバー: 市島清貴(新潟経営大学経営情報学部教授)
野崎ミチコ、田辺とも子

人類永遠のテーマ「コミュニケーション」について学ぶ、大人気のコーナーです。学ぶほどに興味は増すばかりです。そもそもコミュニケーションとは?のお話を市島教授からうかがい、うまく取る方法を考えていきます。メンバーの実体験は、たぶん聴取者のみなさまの“あるある”を刺激することでしょう。どうぞお聴きください。(田辺)

5.

“ワイワイ女性ひろば” 28年度分更新完了!

当会ホームページで28年度分の更新が完了しました。ラジオの番組を聞きのがした皆様、こちらからお聴きください。

- 4月のテーマ「家族はつらいよ」
5月のテーマ「女性と災害」
6月のテーマ「市島教授のコミュニケーション講座」
7月のテーマ「ちょっと耳より・健康アップ講座」
8月のテーマ「健康づくりとまちづくり」
9月のテーマ「市島教授のコミュニケーション講座」

編集後記:

89才になるおばあちゃんいわく、「こたつにもぐっても寒くて鼻水が出る日から、裸になりたい位暑い日のこの世には未練はないねえ」。鮮度一番ご愛読の皆さま、どうぞ自愛ください。鮮度一番218号、どうぞ隅から隅までお読みください。(原)



編集発行: 三条女性会議・代表 野崎ミチコ

連絡先: 三条市田島2丁目12-12 Tel 32-3667 FAX 32-3679

ホームページアドレス: <http://www.joseikaigi.net>